

令和7年度尾張旭市一般会計予算

討論要旨 川村つよし議員

新年度予算は、保育園や学童保育の待機児減少に向けて、一つ一つ手を打っていること。老朽化してきた施設や設備の更新に注力されていること。不十分とは言え、国民健康保険税の値上げ抑制のために繰入を増加させること。印場駅北口のエレベーター設置に向けた設計やデマンド交通の実証実験など、公共交通の利便性向上に向けた取り組みなど、全体として、評価できる内容が多い予算だと思います。一方、物価高騰を背景に、いくつかの値上げが予定されており、今後の市民活動や生活に、どのような影響が出てくるか、注意深く見ていく必要があると思っています。

値上げされる内容は、まず、条例改正が必要だったものとして、第21号議案の草刈り機の貸し出しに係る手数料です。値上げ後の金額でも、ホームセンターで借りるよりは割安ですが、安価だったゆえに、気軽に草刈ができたものが、数年後、雑草が茂っているところが多いと感じるようになるかもしれません。

第25号議案の、し尿汲みとり券の値上げは、約150世帯に影響し、汲みとり1回あたり800円近くの値上げになるかと思われます。値上げを実感されるタイミングは、環境課の窓口で汲みとり券を購入する際だと思いますが、6月1日から値上げされるということを、十分に周知していただきたいと思います。

条例改正によらない値上げ、予算書から読み取れるものとして、公民館と図書館のカラーコピーが10円値上げ。農政講座参加料や公民館講座参加料が、300円から500円になります。社会教育関連の値上げの影響は、地域の文化活動そのものが衰退していくきっかけにならないか気がかりです。

また、これまで無料だった、小学校の金管クラブ参加料が新設されることは、部活動の地域移行に向けた体制づくりという、物価高騰とは別の背景もありますが、気になる話です。値上げではなく、回数を減らすことで経費を削減したものもあります。図書館の講座を隔年にする。学校の窓掃除も隔年にする。

以前は成人式と言われていた二十歳の集いが、3会場から1会場に集約されてしまうのも、これまでの中学校区毎で開催されていた同総会のような雰囲気失われてしまうことも残念に思います。

新年度予算は、いつになく細かい値上げや節約話が多い印象で、それだけ市の財政が厳しいことの現れだと受け止めていますが、財政が厳しいといわれる大きな原因は、やはり人件費の高騰です。予算書に添付された給与費明細書の、一般職の総括を見ると、合計額は、前年度対比で5億2231万3千円の伸び。昨年のそれは、3億2213万7千円の伸び。一昨年のそれは、1億2023万1千円の伸び。となっており、この間の人件費高騰の激しさがわかります。

人件費について、付け加えて言わなければならないのは、民間も同様ですが、物価高騰に給与水準の上昇が追いついていないことです。給与所得者だけでなく、さらに苦しいのは、年金や生活保護受給者など生活困窮者ではないでしょうか。総務省の家計調査によれば、2024年の家計の消費支出に占める食費の割合を示す「エンゲル係数」は28.3%で、これは1981年以来、43年ぶりの高水準と言われます。物価高騰は続いており、2025年は、さらに上昇するかもしれません。43年前の状況を少し想像してみると、当時は、子どもの数が多い時期で、その分、親も比較的若い。一人が食べる量も多かった時代、そして給料は上昇傾向にあるという状況だったろうと思います。

高齢化が進み、こどもの数も少なく、給与水準の上昇も弱く、年金も上がらない現状と比べると、現在の市民の暮らしが置かれた状況は、当時と比べてかなり深刻なものと言えらると思います。いくつかの値上げについて、予算の反対理由とするかを市議団で検討しましたが、影響する範囲と物価高騰の状況を考え、反対理由とはしないことにしています。

では、市民生活を支える上で、市の予算に問題は無いのでしょうか。やはり、不要不急の事業などは見直していくべきです。

この点で、3月19日に開かれた予算決算委員会で、会派として、予算の組み替えを提案しました。矢田川河川緑地整備の延期、三郷駅周辺まちづくり事業の見直しなどにより、小中学校の学校給食費保護者負担増加の回避。国民健康保険税の値上げ抑制をさらに求め、市債の発行を約3億4300万円抑制するなどの内容です。

組み替え動議で、国民健康保険特別会計へ繰り入れのために捻出できる金額はまだ不十分で、国や県に、国保をはじめ社会保障の充実を迫る必要を強く思いました。

三郷駅周辺まちづくり事業に向けられる国の補助金が、社会保障に向けられれば、どれだけ市民生活の支えになるでしょう。国の補助があるから、市の借金が許されるからと、開発行為にお金がつぎ込まれる。その発想を問い直すべきだと思います。残念ながら、他会派の皆さんの賛同は得られず、我々の組み替え動議は否決されましたが、議会の活性化のためにも、今後も提案できるように取り組もうと思います。

さて、最後に、学校給食の話を、もう少し展開しておこうと思います。

2026年度から、小学校の学校給食を無償にするのだと石破総理が国会で発言しました。こうした動きがあるのに、本当に、中学校の給食費の保護者負担を値上げするのでしょうか？

必要な金額は、400万円ですから、もう1年、頑張っ欲しいと思います。

10円値上げの議論の中で、生活が苦しい家庭には就学援助もあると言う声も聞かれましたが、不十分な賃金上昇によって就学援助から外れる家庭もあると思います。やはり早期の無償化が望まれるところです。

もう一つ、給食については、質を落とさず、子どもたちが楽しみにして食べる、おいしい給食の提供を維持して欲しいということも付け加えておきます。

これは、無償化に優先します。3月12日放送されたテレビの情報番組で、東海地方の学校給食SPと題して、特集していました。

三重県津市の、津ぎょうざ

西尾市の、イカフライのレモン煮

瀬戸市の、てりかけ

東海市の、トマ豚汁うどん

これらのメニューの開発には、地域の産業とも関わりがあったり、栄養士や調理師の皆さんの努力もあります。

各地で工夫を凝らし、子どもたちが喜んで食べるメニューが、地域の名物にもなり、津ギョウザは、台湾のB1グランプリで優勝していると紹介されていました。

小中学校時代に食べた学校給食は、同総会などでも話題になるでしょうし、日本の文化にもなっているのではないのでしょうか。

産業育成という視点で、学校給食に市が繰り入れるという発想もあるでしょうし、尾張旭市の学校給食は、美味しくて楽しくなる給食を維持します。と宣言すれば、人口増にも貢献できるかもしれません。

総理大臣が、小学校の学校給食を2026年から無償化しようと言い出しました。疑り深い私は、今の水準を維持できるほど、国は費用を出してくれるのだろうかと心配しています。

例えば、政府が十分に費用を出さなくても、質の高い給食をお願いします。「美味しかったよ」と、子ども達の笑顔が見られるようにお願いし、反対討論いたします。